環境対応 1000BASE-T/X メディアコンバータ　　2015.4.1(17 版)

# DN1800Eシリーズ（Rev. E以降）

## 取扱説明書

**ご使用の前に必ずお読み下さい。**

**製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。**
**URL http://www.dyden.jp/network/**

### 安全にご使用いただくために（使用上の一般的注意事項）

**指定用途以外には使わないで下さい！**
1000BASE－Tの光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。
また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

**分解しないで下さい！**
取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

**製品は大事に扱って下さい！**
誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

**異常が起きたら直ちに使用中止！**
使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

**条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！**
本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

**電波障害自主規制について！**
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

**本製品のご使用にあたって！**
本製品は、人命に関わる場合（医療、航空、原子力、軍事等）や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。
従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわりなく、弊社は一切の責任を負いません。
お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社

弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

### 磁石ケース＆取付ネジ（M2.5×L3mm，2本）

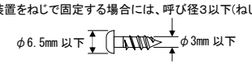
※出荷時に固定用ホルダに組込まれています。

### 別　売　品

下記部材については、添付していませんので別にご準備ください。
・ツイストペアケーブル：
TIA/EIA-568-B に適合するエンハンスドカテゴリー5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。
※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。
※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。
※モジュラーコネクタの結線はフル結線（8ピン全て結線）品を使用して下さい。

・コネクタ付光コード：
【MMファイバ用（G）の場合】
石英系マルチモード光ファイバ（0.85μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz･km 以上のもの）にSCコネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
【MMファイバ用（WG, S）の場合】
石英系マルチモード光ファイバ（1.3μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz･km 以上のもの）にSCコネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上のPC研磨をご使用下さい。
（平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります）
【SMファイバ用（S, L, Z, WS, WL, WX, WZ）の場合】
石英系シングルモード 1.31μm 帯ゼロ分散形光ファイバにSCコネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
ZおよびWX, WZタイプは石英系シングルモード 1.55μm 帯ゼロ分散形光ファイバ（DSFファイバ）も使用可能です。
※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上のPC研磨をご使用下さい。
（平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります）

・固定用ねじ：
本装置をねじで固定する場合には、呼び径3以下(ねじ頭 6.5mmφ以下)のねじを使用して下さい。




### 警告

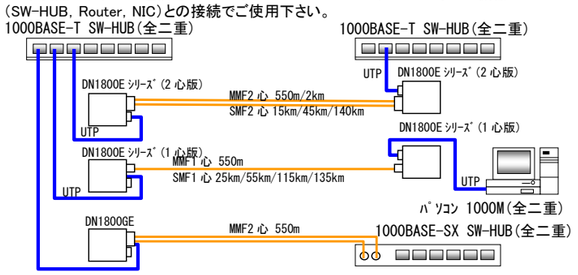
・交流100～240V以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
・ACアダプタは専用のものを使用して下さい。
火災や感電、故障の原因となります。
・ACアダプタはACコンセントに確実に差し込んで下さい。
ACアダプタの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
・専用ACアダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。
機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。
・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分・UTP ポート・部品などに素手で触れないで下さい。

### 注意

・ ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体部を持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
・ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
・ 本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
・ 本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
・ 放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
・ 本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
・ 本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
・ 本装置はクラス1レーザ製品です。
クラス1レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。
・ 光コネクタ清掃のお願い。
本装置は光ファイバとの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光トランシーバ内に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くようお願いします。

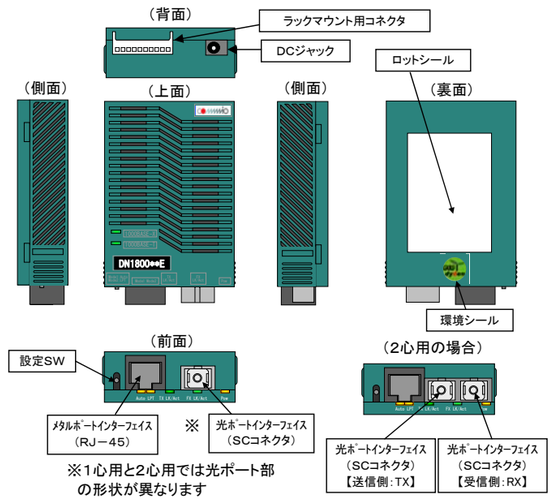
## 2. 概要

本製品はUTPによる1000BASE-TXの信号を光信号（1000BASE-X）に変換するメディアコンバータです。
ネットワークの通信媒体であるツイストペア線を光に変換することで屋外へのリンクセグメントの配線を可能にします。
本製品は、半二重通信方式には対応していませんので、全二重対応の機器（SW-HUB，Router，NIC）との接続でご使用下さい。



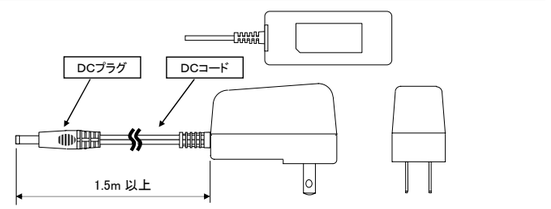

## 1. 装置各部の説明／付属品

### 本　体

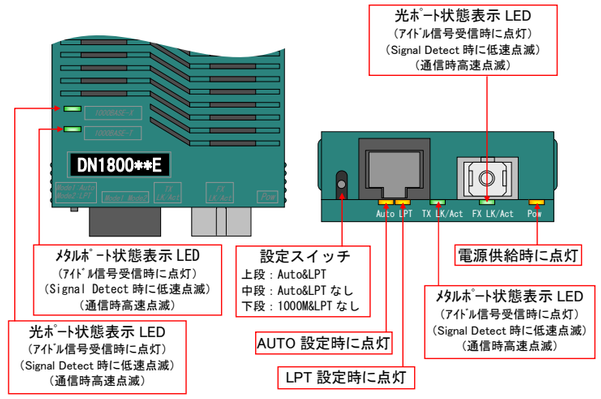



※1心用と2心用では光ポート部の形状が異なります

### ACアダプタ

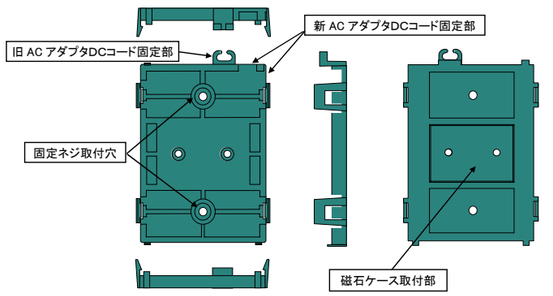



### 表示LED・設定SW

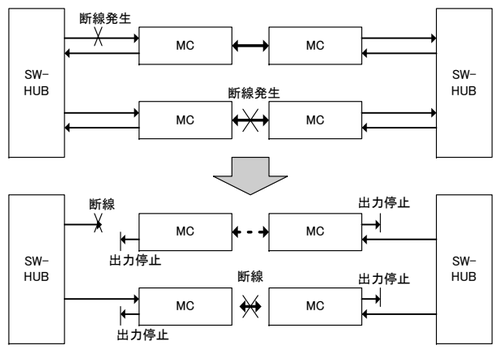



※Signal Detect:対向機器から信号を受信している状態です。Link Up 状態とは異なります。

### 固定用ホルダ



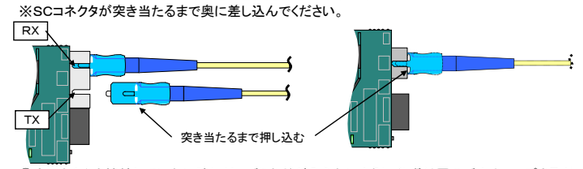

【リンク連動機能について】
本製品にはリンク連動機能（LPT機能）があります。リンク連動とは、メディアコンバータ（MC）で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するSW－HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW－HUBが伝送路の切断を認識できます。
例えばSW－HUBのマルチポートトランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。
この機能は光部Autonegotiation信号を用いて実現しているため、Auto設定時にしか有効になりません。
※対向機器が1000BASE-T Half Duplex設定（1000BASE-T側機器で1000BASE-T Half Duplex Advertise Modeになっている）場合はリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。仕様が不明な場合はあらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。
リンク連動設定でBackToBack接続しますとリンクアップに時間がかかりますのでBackToBack接続では使用できません。
光⇔UTP⇔光接続ではリンク連動は正常に動作します。ただし、DN5510Eシリーズおよびシリーズが対向機器の場合は動作しません。



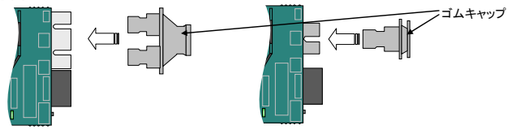

## 3. 種々の接続・取付け

### 光コネクタの接続

【各シリーズ共通注意事項】
①光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの曲げ半径を30mm以上確保して下さい。
②対向側の TX 部と本体側の RX(本体右側)部、対向側の RX 部と本体側の TX(本体左側)部と接続して下さい。（2心用のみ）
③SCコネクタがロックされていることを確認して下さい。
※SCコネクタが突き当たるまで奥に差し込んでください。




④光コネクタを接続していない時には、ゴミなどが入らないように必ず付属のゴムキャップを取り付けて下さい。

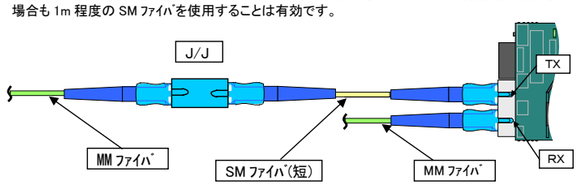



【1心用（WG, WS, WL, WX, WZ）の場合】
①対向側に同じシリーズ（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）の波長違いが接続されていることを確認し、本体にSCコネクタを接続して下さい。
・DN1800WG3E⇔DN1800WG5E or DN5810WG5E 等
・DN1800WG5E⇔DN1800WG3E or DN5810WG3E 等
・DN1800WS3E⇔DN1800WS5E or DN5810WS5E or DN6810WS5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN1800WS5E⇔DN1800WS3E or DN5810WS3E or DN6810WS3/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN1800WL3E⇔DN1800WL5E or DN5810WL5E or DN6810WL5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN1800WL5E⇔DN1800WL3E or DN5810WL3E or DN6810WL3/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN1800WX5E⇔DN1800WX6E or DN5810WX6E 等
・DN1800WX6E⇔DN1800WX5E or DN5810WX5E 等
・DN1800WZ5E⇔DN1800WZ6E or DN5810WZ6E 等
・DN1800WZ6E⇔DN1800WZ5E or DN5810WZ5E 等

【2心用（G, SG2, L, Z）の場合】
①対向側に同じ型番の製品（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）が接続されていることを確認し、本体にSCコネクタを接続して下さい。

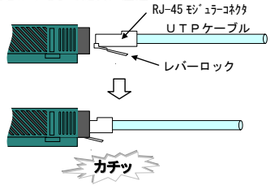
・DN1800GE⇔DN1800GE(DN-1800G) or DN5810GE or DN6810*/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時) or 1000BASE-SX 機器等
・DN1800SG2E⇔DN1800SG2E or DN5810SG2E or DN6810SG2/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時) or DN1800SE or DN5810SE or DN6810S/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時) or DN1800G ⅡE or DN5810G ⅡE 等 or 1000BASE-LX 機器等
※対向機器の仕様に合わせてご使用下さい。
・DN1800LE⇔DN1800LE or DN5810LE 等
・DN1800ZE⇔DN1800ZE or DN5810ZE 等

※SG2Eを 1.5km 以上の MMF(50μm)と組み合わせて使用の場合でエラーが発生する時は 1m 程度の SM ﾌｧｲﾊﾞを両方の送信側に接続するとエラー低減に効果があります。（但し、光ロスが許容損失値以下であること）同様にSG2Eを使用し、帯域が足りないﾌｧｲﾊﾞで長距離伝送したい場合も 1m 程度の SM ﾌｧｲﾊﾞを使用することは有効です。




## ＵＴＰケーブルの接続

RJ－45モジュラーコネクタを取付けたUTPケーブルを、本体のモジュラージャックに接続して下さい。
※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。




※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。

**※1000BASE-T 規格の 4,5 コネクタの 4 ピンをフルに使用して伝送する仕様となっていますので、RJ45 プラグ部の接触子の突出量が一定に揃ってないと 1000BASE-T 信号を認識できずに正常にリンクアップしない可能性があります。また、RJ45 プラグのロックが充分でないと振動等でリンク状態が不安定になる可能性がありますので、RJ45 プラグを接続する際には振動を与えてリンク状態が安定か確認を行って下さい。問題が発生している場合には RJ45 コネクタを入れ替える等でプラグを変更すれば、改善致します。**

## ＡＣアダプタの接続

【旧 AC アダプタ（**白地に黒文字シール/太径 DC コード品**）の場合】
①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面部（旧 AC アダプタDCコード固定部）にDCコードを引っ掛けて下さい。
※ケーブルを縦（細い）方向にした状態で固定部に挿入し、ケーブルを 90 度回転させると抜けなくなります。

②DCプラグを本体背面のDCジャック部に接続します。
※DCプラグが入らなくなるまで押し込んでください。

【新 AC アダプタ（**黒地に白文字シール/細径 DC コード品**）の場合】
①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部（新 AC アダプタDCコード固定部）にDCコードを引っ掛けて下さい。

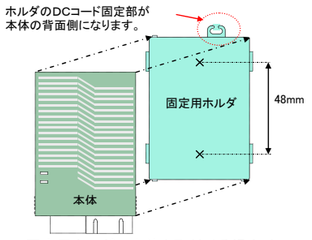
②DCプラグを本体背面のDCジャック部に接続します。
※DCプラグが入らなくなるまで押し込んでください。

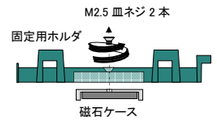
最後に電源プラグ（ACアダプタの本体部）をACコンセントに確実に差し込んで下さい。
※ACアダプタは専用のものをお使い下さい。
**細径 DC コードを太径 DC コード固定部に取り付けると抜ける場合がありますので注意下さい。**

## 装　置　の　取　付　け

本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。
横置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。
金属部に磁石で固定する場合には、付属の固定用ホルダに磁石ケース取付けて下さい。（出荷時に取付け済み）
壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを取り外して堅牢な壁面等に木ネジ等で取付けて下さい。磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

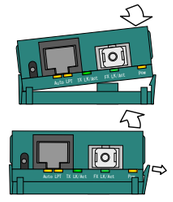
【ネジ固定時の下穴位置】　【ネジ固定時の磁石ケース取外し】




※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側面の爪に引掛けてから反対側を押し込んで下さい。

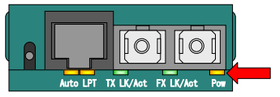
※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪（前後 2 箇所）を軽く開きながら本体を引抜いて下さい。



## 4. 接続状態の確認

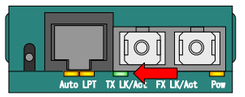
### 電源の確認

添付のACアダプタをACコンセントに差込み、DCプラグ本体に接続した状態で本体表示LEDの「Pow」が黄色に点灯していることを確認して下さい。



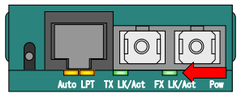

### UTPケーブルの確認

UTPケーブルを 1000BASE-T 対応の機器（パソコンやルーター,スイッチングハブ等）に接続し、本体表示LEDの「TX　LK／Act」が緑色に点灯（もしくは点滅）することを確認して下さい。
※UTPを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※LPT設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれUTPで接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。




### 光ケーブルの確認

光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示LEDの「FX　LK／Act」が緑色に点灯（もしくは点滅）することを確認して下さい。
※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※LPT設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれUTPで接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。
※Auto 設定時は、光対向側も同様に Autonegotiation 設定になっていないとリンクアップしません。（UTP 側及び光2心共接続しておく必要があります。）




## 5. SWの設定及び注意

### ＳＷの設定

①対向機器（光部）が Autonegotiation 設定で LPT 動作が必要な時は設定SWを上向きにして下さい。
→Auto 及び LPT 表示 LED が黄色に点灯することを確認してください。

②対向機器（光部）が 1000M･全二重固定設定の時は設定SWを下向きにして下さい。（LPT 動作はしません。）
→Auto 及び LPT 表示 LED が点灯しないことを確認してください。

③対向機器（光部）が Autonegotiation 設定で LPT 動作が不要な時は設定SWを真ん中にして下さい。
→Auto 表示 LED のみが黄色に点灯することを確認してください。
（出荷時はこの設定です。）
※別売のサブラック（DNHD12E）にメディアコンバータを実装して、オプション品「SNMPユニット」から設定を行っている場合には、手動によるSWの設定が有効になりません。
※SWの設定が難しい場合は、シャープペン等の先の細いものを用いて切り替えてください。
※LPT 設定時は、UTP対向側の機器が 1000M&半二重サポート状態だとリンクアップしない場合がありますのでその時は対向側の機器設定を 1000M&全二重の設定でご使用下さい。

### 設定時の注意

①光部対向側の機器が Autonegotiation 設定（LPT 設定含む）時には必ず本装置の設定を Autonegotiation（LPT 設定含む）設定にして下さい。
※設定が異なる場合はリンクアップしなかったり、通信できない可能性があります。

②LPT 設定時は対向接続したメディアコンバータの設定も LPT 設定にして下さい。
※異なるとリンク異常状態を伝えることができなくなるため Link Aggregation 等のトランキング用途で正常に動作しない可能性があります。

③UTP 側対向側の機器に 1000M をサポートしていない機器を接続しないで下さい。
※接続した場合は正常に動作しません。

## 6. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

### POWER LED が点灯しない

確認①：ACアダプタの本体部はコンセントにきちんと根元まで接続されていますか？
確認②：ACアダプタのDCプラグ部はメディアコンバータ本体のDCジャック部にきちんと根元まで接続されていますか？

### TX LK/Act LED が点灯しない

確認①：モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？
確認②：接続相手機器の電源は入っていますか？
確認③：接続相手の機器の設定は「Autonegotiation」もしくは「1000M・全二重」になっていますか？
本装置は 1000M・全二重でしか動作しません。Autonegotiation に対応していますが、ごくまれに 1000M/Half Duplex Mode 設定になる機器があります。その時は 1000M・全二重設定に変更して、再度モジュラーコネクタを抜き差しして下さい。
確認④：UTPケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？
代わりのUTPケーブルで接続してみて下さい。
モジュラーコネクタはフル結線である事を確認ください。
確認⑤：低速点滅していませんか？
対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。
Auto(+LPT)設定で UTP/光ポート共に確実にリンクアップ出来る状態にならないと発生します。各ポートの状態を確認ください。
確認⑥：リンク状態が不安定ですか？
RJ45 コネクタのプラグ部不良の可能性があります。プラグ部を入れ替える等にて確認下さい。

### FX LK/Act LED が点灯しない

確認①：光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか？
コネクタの端面を清掃し、再度抜き差ししてみて下さい。
汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善されなかった場合には汚れが光トランシーバ内に付着している可能性がありますので光トランシーバ内の清掃を行ってください。（清掃が不可能な場合は一旦返却下さい。）
光トランシーバ内に異物が存在していると、反射が発生しエラーが発生する可能性があります。特に1心版については影響を受けます。
確認②：光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？
SG2/L/Z/WG/WS/WL/WX/WZ に関しては、伝送路にエアギャップ式の光減衰器（アッテネータ）を挿入しないで下さい。伝送路のコネクタ接続については PC 研磨以上の反射減衰特性を持つコネクタを PC 接続して下さい。光伝送路が光許容損失値内である事を確認して下さい。
※Auto 設定時には、UTPがリンクアップしない限り光側はリンクアップしません。
※1000M 固定設定時の入力信号の確認は Auto 設定時と比較し、符号のチェックまで行ないませんので、誤動作する可能性があります。厳密なチェックを行ないたい場合には Auto 設定をお使い下さい。
※2心伝送の場合断線箇所の切り分けの場合は 1000M 固定設定で可能です。
確認③：低速点滅していませんか？
対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。
Auto(+LPT)設定で UTP/光ポート共に確実にリンクアップ出来る状態にならないと発生します。各ポートの状態を確認ください。

### Auto／LPT LED が点灯しない

確認①：設定SWの位置がきちんとセットされていますか？
もう一度設定SWを上下に動かしてみてください。
確認②：SNMPモジュール側で設定をしていませんか？
SNMPの設定が優先されますので、SNMPモジュール側で設定を解除してみて下さい。
※LPT 設定時にリンクアップしない場合は、設定を 1000M&LPT なしに切り替えてみて下さい。それでもリンクアップしない場合は伝送路及び対向側の機器設定が 1000M・全二重設定になっていない場合があります。
※リンク連動が不要な場合は、1000M&LPT なしか Auto&LPT なしの設定でお使い下さい。リンクアップしない場合は、1000M&LPT なし設定でリンクアップするか確認して下さい。正常にリンクアップしたら対向側の光設定が 1000M 固定設定で動作しています。（光部対向装置の仕様により 1000M 固定設定でしかリンクアップしない場合があります。）
※上記設定は、全て光側に接続する機器の仕様に合わせて全二重でリンクアップするようにお使い下さい。
※設定 SW はゆっくりと切り替えて下さい。
設定 SW の切替をすばやくすると設定を正常に読み込めない可能性があります。表示LEDが順次変化するのを確認しながら切り替えて下さい。一番上～下への切替時も確実に真ん中の位置に一旦入った事を確認後切替えて下さい。
※Back To Back 接続では使用しないで下さい。
本装置はリピータタイプの MediaConverter です。本装置のカスケード接続段数の制約は2段迄ですので、縦続接続をする場合は間に Bridge(SW-HUB)を入れて下さい。（他社の MediaConverter-リピータタイプとの接続でも同様です。）
※Auto 設定時の光リンク LED は UTP がﾘﾝｸｱｯﾌﾟしないと有効になりません。
光部 Autonegotiation 設定時には UTP 部がﾘﾝｸｱｯﾌﾟしていない時には光部もﾘﾝｸｱｯﾌﾟしません。伝送路の確認を行う場合は 1000M&LPT 無し設定で確認を行って下さい。
※SG2Eを 1.5km 以上の MMF(50μm 時)や帯域が足りないﾌｧｲﾊﾞや 62.5μm ﾌｧｲﾊﾞと組み合わせて使用の場合でエラーが発生する時は 1m 程度の SM ﾌｧｲﾊﾞを両方の送信側に接続して下さい。

## 環境対応 1000BASE-T/X ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾊﾞｰﾀ DN1800E シリーズ 保証書

| | |
|---|---|
| ロットNo. S／N（ロットシールに記載） | |

| | | |
|---|---|---|
| お客様（御社名） | | |
| お名前（ご担当者名） | | |
| お客様 | ご住所 | |
| お客様 | TEL | |
| お客様 | FAX | |
| ご購入日 | | 年　月　日 |
| 保証期間 | | ご購入日より5年間（センドバック式） |
| 販売店 | | |
| 販売店 | 住所 | |
| 販売店 | TEL | |
| 備考 | | |

＊保証外条件
保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。
1. 取扱説明書に記載の使用方法や注意事項反するお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷
2. ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
3. 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変及び指定外の使用電圧による故障及び損傷


『営業窓口』 大電株式会社　ネットワーク機器部　営業課
コールセンター（ﾃｸﾆｶﾙｻﾎﾟｰﾄ窓口）：TEL 0120-588-545（携帯・PHS にも対応）
e-mail：commnio@dyden.co.jp
東　京：〒113-0033　東京都文京区本郷 2-3-9　ツインビュー御茶ノ水3階
TEL（03）5684－2100【代表】
名古屋：〒461-0005　愛知県名古屋市東区東桜 1-1-6　住友商事名古屋ビル5階
TEL（052）951－1414【代表】
大　阪：〒541-0041　大阪市中央区北浜 4-7-28　住友ビルディング2号館1階
TEL（06）6229－3535【代表】
九　州：〒849-0124　佐賀県三養基郡上峰町堤 2100-19
TEL（0952）52－5846【代表】